

チャ「芽枯れ症」に関する研究(第 3 報)

現地茶園におけるチャ「芽枯れ症」発生の土壌要因

矢野清,常包一明,安部秀雄

チャ「芽枯れ症」発生の土壌要因を明らかにするため,現地「芽枯れ症」発生地点の土壌理化学性を隣接及び健全地点のそれに対比させ,比較検討した。

1. 0.1NHC1 可溶性 Cu 含量は健全地点が「芽枯れ症」及び隣接地点より有意に高かった。「芽枯れ症」地点と隣接地点間には有意な差は認められなかった。
2. 「芽枯れ症」地点と隣接地点間に有意な差が認められた土壌物理性としては,液相率,pF1.5 及び 3.0 の土壌水分率で,隣接地点が「芽枯れ症」地点よりいずれも高かった。
3. 土壌化学性では,pH(H₂O)及び易還元性 Mn 含量は「芽枯れ症」地点が隣接地点より高かった。
4. 以上のことから,「芽枯れ症」発生の土壌要因は一義的には土壌中の有効態 Cu 含量であり,有効態 Cu 含量が Cu 欠乏症発生限界値付近では土壌の乾湿,pH 及び易還元性 Mn 含量などの土壌理化学性にその発生が左右されると考えられた。